

指定番号 3 ^{しゆくぼうかんばら} 宿坊神原 ^{しゅおく} (主屋)

所在地	戸隠中社
建築年代	明治中期
建築概要	木造2階建、寄棟造(くど造形)、平入、茅葺
特徴等	<p>宿坊神原は、戸隠神社の宿坊の一つであり、中社社殿に至る大門通り沿いに位置する。明治になって奥社から移ってきた宿坊であり、茅葺屋根をなした主屋が戸隠の伝統的な町並み景観を今に伝えている。</p> <p>敷地は、参道(大門通り)より一段低くなっているため、総二階で建てられている主屋は、参道からは平屋建てのようにみえる。参道に面した玄関も、主屋の二階に設けられている。</p> <p>明治33年頃に建てられた主屋は、神殿を含む宿泊部分がまず造られ、次いで、敷地の奥に向かって建物の北側と南側に増築された結果、九州地方のくど造のようなコの字形になった。茅葺の建物で平面形状がコの字形をなすものは、戸隠のみならず県内においても他に知られておらず、貴重な建築である。また、宿坊神原の主屋は、中社の茅葺の建物としても規模が大きいことにくわえ、参道沿いの最も見通しの良いところに位置しており、町並み景観としても重要な宿坊である。</p>
備考	



宿坊神原 案内図 S=1:5,000